海外輸出流通視察調査報告書

日　　時：平成２７年７月９日～７月１３日

調査地域：シンガポール・香港・マカオ

ＪＡこばやし

海外輸出流通調査報告

１．日　　時　平成２７年７月９日～１３日

２．調査地域　シンガポール・香港・マカオ

３．調査目的　今般のＦＴＡ等国際化の進展やＴＰＰ協定等が進む中で、九州地区や宮崎県・ＪＡ宮崎経済連が輸出促進を進めている東南アジア地域の流通現地調査を行うことにより、海外農産物に打ち勝つ農産物の輸出体制に向けた糸口を探るための調査を行った。

４．出席役員　坂下組合長・入佐副組合長・山﨑会長理事・河野理事・齋藤理事・瀬戸山理事・棚橋理事・寺前理事・松田理事・宮脇理事・横山理事
山崎代表監事・富山常監・榎田監事・栗原監事　　(引率職員)見越

７月　９日　移動日

７月１０日　シンガポール流通調査

兵庫県淡路島と面積が変わらず人口５４０万人、人口密度6500人（世界トップクラス）、山が無く平地の島々からなっている。元はマレーシアで1965年8月9日に独立し、今年が独立50周年で至る所で国旗が見られ記念イベントの準備がされていた。人口割合は華僑77%、マレー人15%、インド人7%で言語は中国語・英語・マレー語との事。ほとんどの国民は高層マンションに住んでおり、一戸建て住宅は１億円を優に超える為ほとんど見かけない。土地に限りがあるために日本より窮屈な感じを受ける。外で食料品スーパーを見かけないので街並みに生活感が感じられない。

東南アジアで経済は一番強い（原油の精製…世界２位、金融規模…世界３位、世界一忙しいと言われる港）すべてがつながっているのが強みとなっている。
シンガポールはすべてを輸入している（水を含む）ため、もし戦争になったら一週間もたないだろうとの事。

マナー違反の罰金が高額で、特にタバコ喫煙について禁止場所･･･公共の場500ドル（５万円）、冷房のあるところ1000ドル（10万円）と高額になっている。
また、最近インド人労働者の飲酒がらみの事故があり夜10時半以降の酒類の販売が禁止された。

街の真ん中に一見目立つ大型百貨店・高島屋や伊勢丹が進出していた。食品売り場について総じて日本国内での売価に比べ、２～３倍の価格になっており運賃が掛かっているからとの事であったが、隣国マレーシア産野菜と比較しても高価格であった（白菜１個1700円、里芋１kg700円、ニラ１束460円、洗いゴボウ１kg560円、ミニトマト200g560円、肥後グリーンメロン１個3080円、宮崎マンゴー１個5690円）。日本和牛は見た目も綺麗で高級和牛として、注目されていると感じた。

物価は総じて高く、例えば自動車は日本で200万円の価格のものが1100万円もするとの事。自動車を所有している家庭はやっぱり富裕層のようである。

ＪＡこばやし

海外輸出上の課題：宮崎産を含めバイヤーにどうアピールし、情報発信をどうしていくか。全国１位の宮崎和牛・日本和牛をどうシンガポールの国民の舌をとらえていくか営業重視が必要に感じた。

７月１１日　香港流通調査

シンガポール発の飛行機が４時間近く遅れたため香港での視察研修は日系スーパーイオン（イオンとしては古い店舗）と宮崎牛レストランとなった。経済連香港事務所は宮崎県事務所と同じビルに引っ越しを最近済ませたとの事。当日は休日でビルが閉鎖されており事務所の見学は叶わなかった。経済連事務所の沼田所長より香港事務所の活動等について移動中の車中にて説明を受けた。今後も中流世帯以上を相手にした販売を行っていくとの事であり、ミヤチク・サンＡブランドの進出を予定している模様。宮崎牛については安売りをしない方針でイオンの店頭では販売していないとの事。当日は他産地の和牛が特売価格で店頭に出ていた。

イオン康怡店ではちょうど北海道フードフェアを行っており「夕張メロン1玉4900円・三笠メロン1玉4600円・スイートコーン1本920円・大根1本360円等」が陳列されていた。大根は船便との事で割と安価であった。店舗に到着したのが夕方５時頃で買い物客が最も賑わう時間帯で窮屈な視察となった。日系スーパーのため日本語表記の商品が沢山あったが価格は国内より２倍くらいの価格の印象であった。イオンは中流世帯の位置づけであり日本人の買い物客も見られた。沼田所長の話によると住居の家賃が高く100％日本産の食材での生活は難しいとの事でした。

宮崎牛レストラン「田舎屋」はＩＣＣビル101階にあり、ミヤチクで鉄板焼きの研修を受けたシェフが在籍しており上等に調理されていた。研修当時にテレビニュースで取り上げられた映像もあった。料金は安くないにもかかわらず、店内はほぼ満席に近い状況で繁盛していた。

ＪＡこばやし

＊香港における２人の宮崎経済連職員の活動（沼田所長・佐藤業務担当）

２０１２年事務所開設、４年目を迎え体制を構築中。業務は宮崎県職員と連携をとりつつ、日本がマーケットとする食品商談･フェアー開催･飲食店への営業活動等で、職員の行動に感銘した。農家所得向上の為、グローバル化時代の中、産地として更なる切磋琢磨の必要性を感じた。

ＪＡこばやし

７月１２日　マカオ流通調査

面積３０㎢で香港の１０分の１の広さしか無く、観光バスで１時間もあれば１周出来るが、時間帯によって一方通行になる時もありバスより歩いたほうが早い時もあるとの事。ちなみに自動車は日本の倍程の価格で新車しか輸入できないとの事であったが新型車は沢山見た（車検は無い）。

日系スーパーだったヤオハンが、マカオ企業となって営業している百貨店「ニューヤオハン」の見学を行った。日本の食材はこれまでよりは少なく感じたが神戸牛が陳列してあり別格の価格設定であった。ほかの物価についてはこれまでの中では一番安く感じた。日本製の物については日本で買ったほうが安いものが多い。

７月１３日　移動日

総括：視察を行った３か所共に中国が後ろに控えている感じがし、まだまだビジネスチャンスがあると感じた。先発隊の経済連や宮崎県の益々の市場開拓に望みをつなげて販売先で求められるモノを生産しなければならないと感じた。

（※なお各視察先の情勢については現地添乗員の説明をもとに記載しております。）

ＪＡこばやし